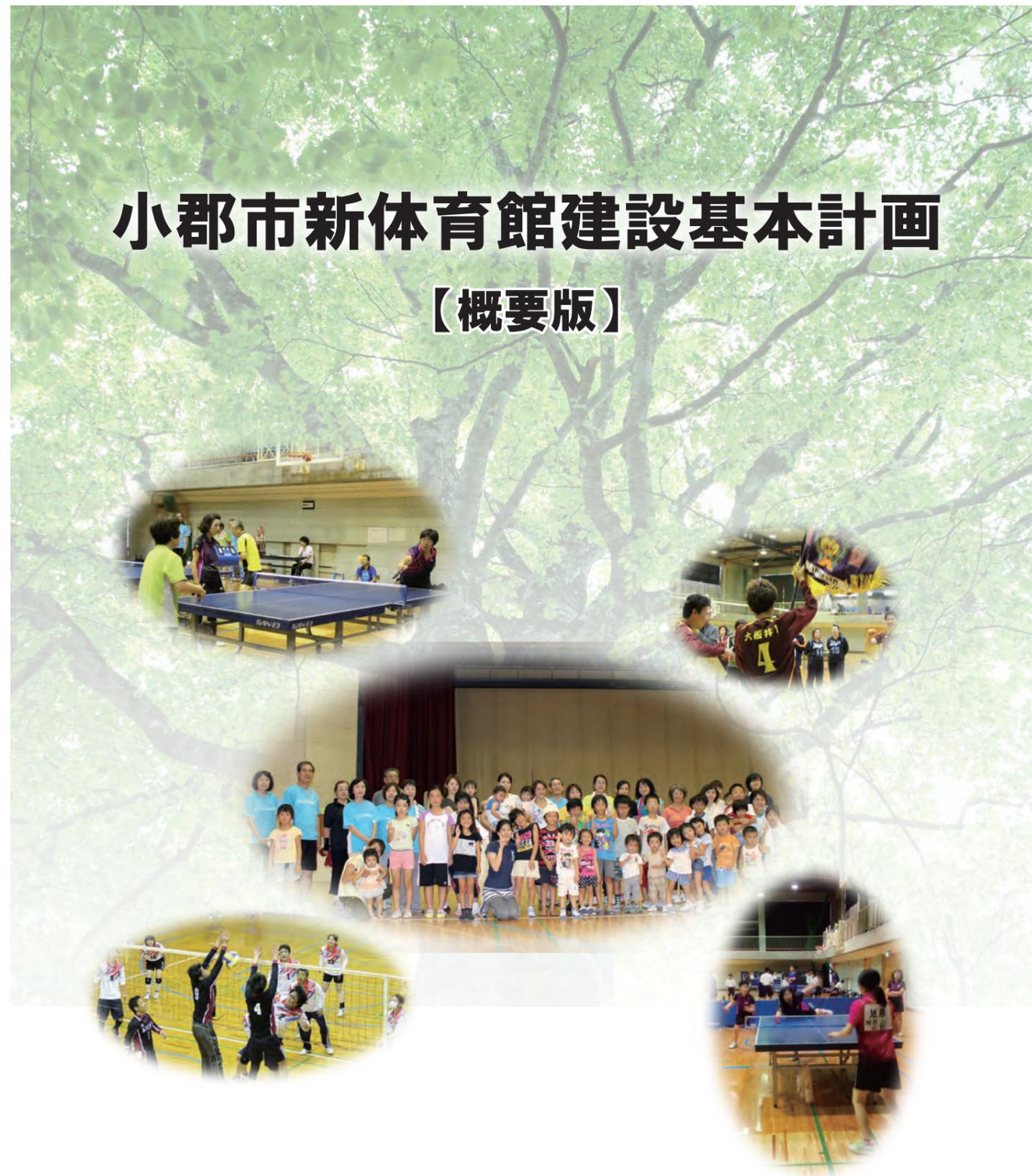


小郡市新体育館建設基本計画

【概要版】



平成29年 3月

小 郡 市
小郡市教育委員会

小郡市教育委員会 スポーツ振興課
〒838-0115
福岡県小郡市大保427番地1(小郡市野球場内)
TEL:0942-75-2373 FAX:0942-75-2454

1. 計画の目的

小郡市体育館及び小郡市勤労青少年体育センター(以下、「武道場」という。)、小郡市弓道場(以下、「弓道場」という。)は本市の屋内スポーツ施設の拠点として約40年間にわたり、多くの市民や関係団体から利用されてきた施設です。

しかし近年は、スポーツ基本法の施行、スポーツニーズの多様化や少子高齢化などの社会情勢の変化、施設や設備の老朽化による管理コストの増加や施設利用の制約など様々な課題を抱えており、今後は、本市にふさわしい屋内スポーツの拠点として再整備することが求められています。

本計画は、平成27年3月に策定した「小郡市スポーツ推進基本計画」に基づき、市民が健康で生き生きとした生活が送れる環境整備として、また、市民が気軽にスポーツを親しむことができる施設として新体育館整備を行うために策定をします。

2. 基本コンセプト

「小郡市スポーツ推進基本計画で示されている基本理念」

くらしと密着したスポーツのまちおごおり

暮らしと密着したスポーツを通して健康の増進や人と人のつながりを創出し、市民全体が豊かな生活を送ることが可能なまちを将来像として、小郡市のスポーツを推進するものとしています。

その中で、以下の3つの基本方針が示されています。

- ◇ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション機会の充実
- ◇スポーツを支え、生かす仕組みの充実
- ◇スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実

「新体育館の基本コンセプト」

スポーツを通じて市民の健康づくりと交流を支える体育館

市民の健康増進や体力づくりができる

- ☞市民の健康増進、体力づくりやレクリエーション等を目的として小郡市の屋内スポーツの中心拠点を目指します。
- ☞いつでも、だれでも、気軽に利用できる施設を目指します。



日頃の練習成果を発揮する競技大会が開催できる

- ☞日頃の練習成果を発揮する場として、市内大会や周辺自治体と連携した大会を開催し、多くの方がスポーツによる交流の場として活用できるスポーツ施設を目指します。

スポーツだけでなくイベントなどを通じた交流ができる

- ☞スポーツ情報の発信拠点、競技者の交流拠点を目指します。
- ☞観光や地域のイベントができる交流の場としての利用も目指します。



使い勝手が良く、多くの方が多様な使い方ができる

- ☞利用者が多くの利用機会を得られるようにするため、少人数での利用も想定した諸室構成とします。
- ☞施設を利用する上で「使いたい、使いやすい」と思われる環境づくりを目指します。

3. 4つの整備方針

整備方針1: 日常のスポーツ活動を支援する施設づくり

小郡市の屋内スポーツの拠点として、日々の健康増進や生きがいづくりのための施設を目指します。

レクリエーションスポーツやニュースポーツなどに対応した施設とし、市民が気軽に立ち寄り運動できる施設を目指します。

市民ニーズの高いトレーニングルーム、少人数でもヨガやエアロビクスなどができる空間づくりを目指します。



整備方針2: 身近なスポーツ大会が開催できる施設づくり

日頃の練習の成果を発揮でき、市や地域の大会がスムーズに開催できるスペースを確保し、競技者、大会運営者ともに利用しやすい施設づくりを目指します。

ユニバーサルデザインの観点より、誰もが使いやすい施設づくりを目指します。

その中で、障がい者スポーツにも配慮し、多様な使い方ができる拠点施設を目指します。

また、競技大会時のアップスペースとしてのサブアリーナや2F観覧席の外周部分にウォーキングコース等を設けます。



整備方針3: スポーツによる交流やイベントの拠点としての施設づくり

地域のスポーツ団体の拠点施設として利用できるように、会議や研修が行えるスペースの充実を目指します。

地域のスポーツ関連情報の発信拠点となるよう、サークル活動や地域のスポーツ大会等の情報がいち早く得られるようにし、スポーツを楽しむ市民が交流できる施設づくりを目指します。特に、エントランスホールは、開館時に自由に使えるようにし、スポーツという目的をもった多様な人が集まり、スポーツを通じた交流や仲間づくりができる施設を目指します。

観光イベントや地域のイベントができる、様々な交流の場としても利用できる施設づくりも目指します。



整備方針4: 競技者にも環境にも優しい施設づくり

競技者の競技力向上や競技環境を整えるために、空調設備の導入を目指します。

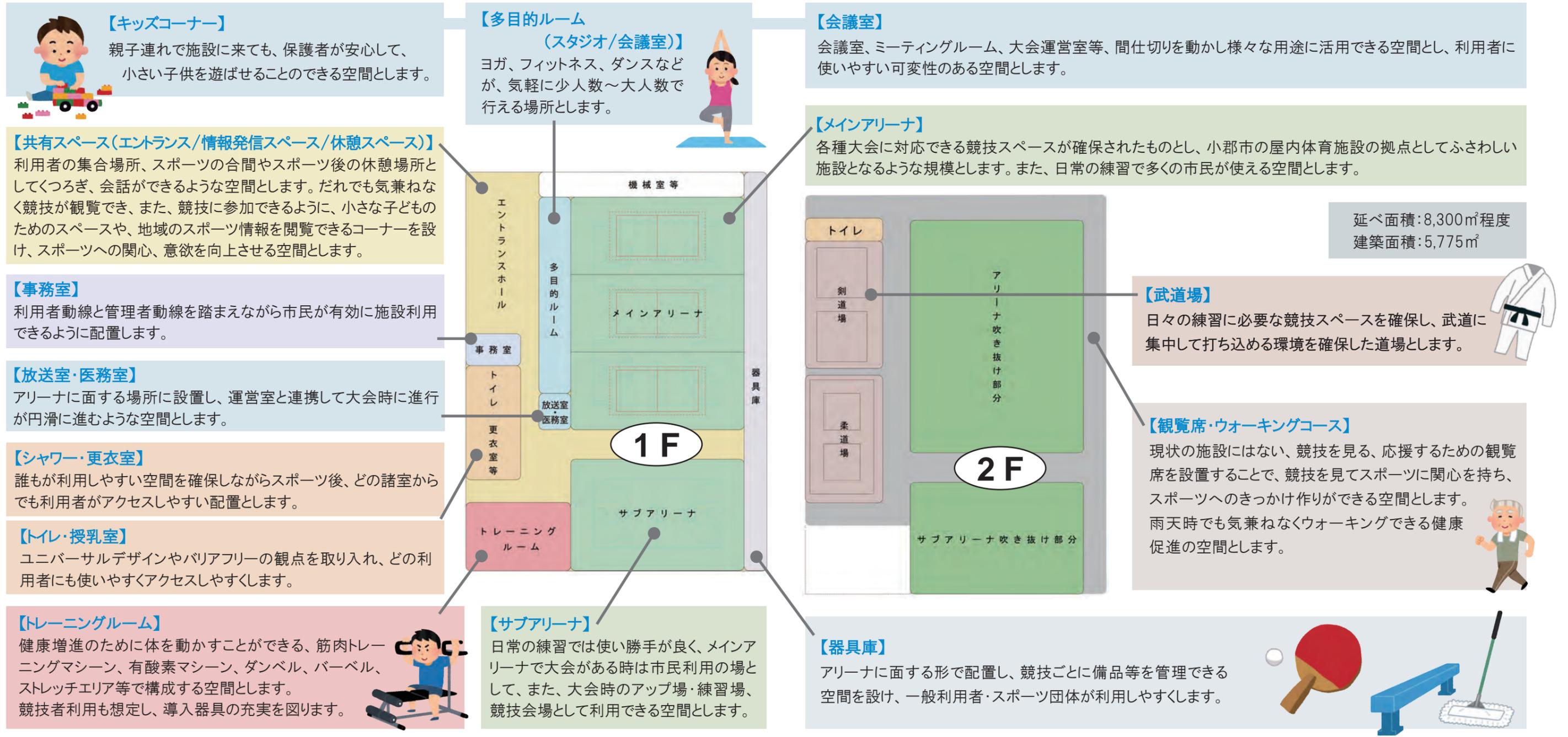
その中で、エコの観点から、太陽光パネルによる自然エネルギーの活用、地中熱を活用した冷暖房設備の導入等、自然環境に配慮した自然に優しい施設づくりを目指します。

施設を持続的に効率良く運営することを考慮すると、メンテナンスのしやすさへの配慮、ランニングコストの低減により施設のライフサイクルコストが最適化される施設づくりを目指します。

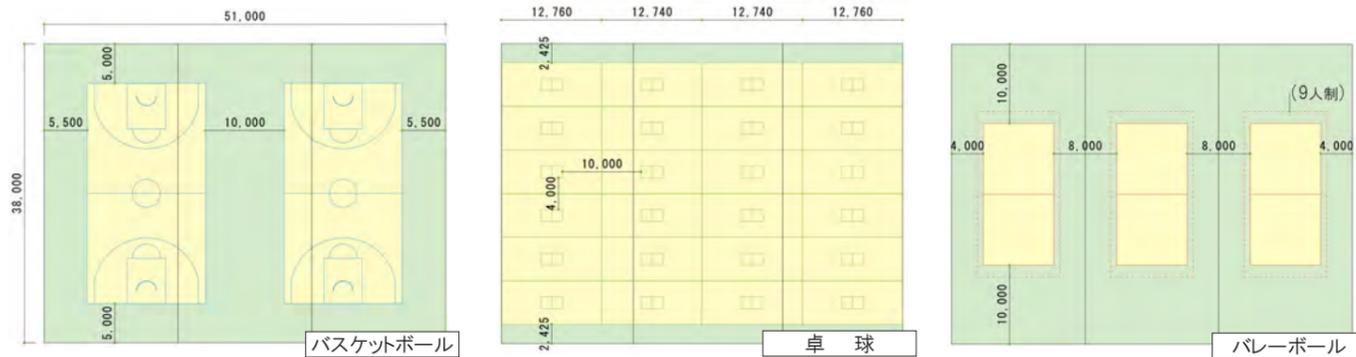


4. 導入施設イメージ・規模

整備方針を踏まえ、新体育館への導入施設・機能を以下のように設定します。

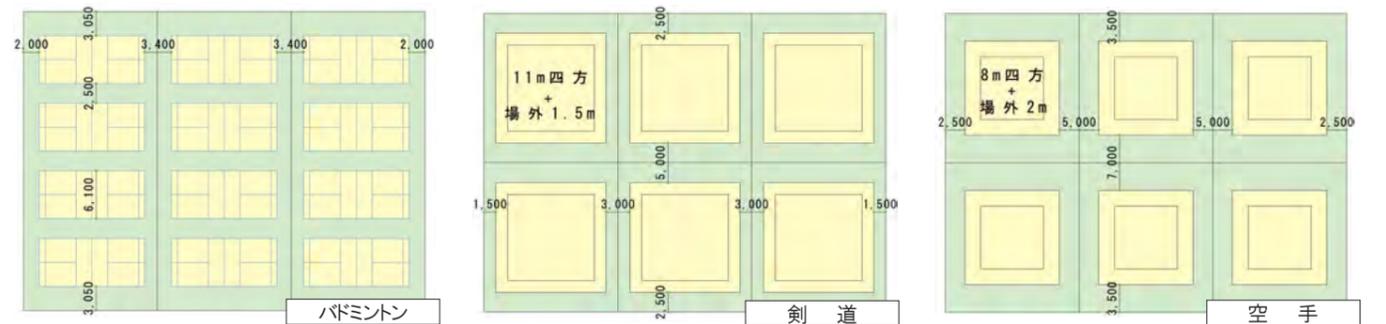


アリーナ 面積 = 51 × 38 = 1,938㎡



収容コート数

バレーボール	3面	卓球	24面	剣道	6面
バスケットボール	2面	バドミントン	12面	空手	6面

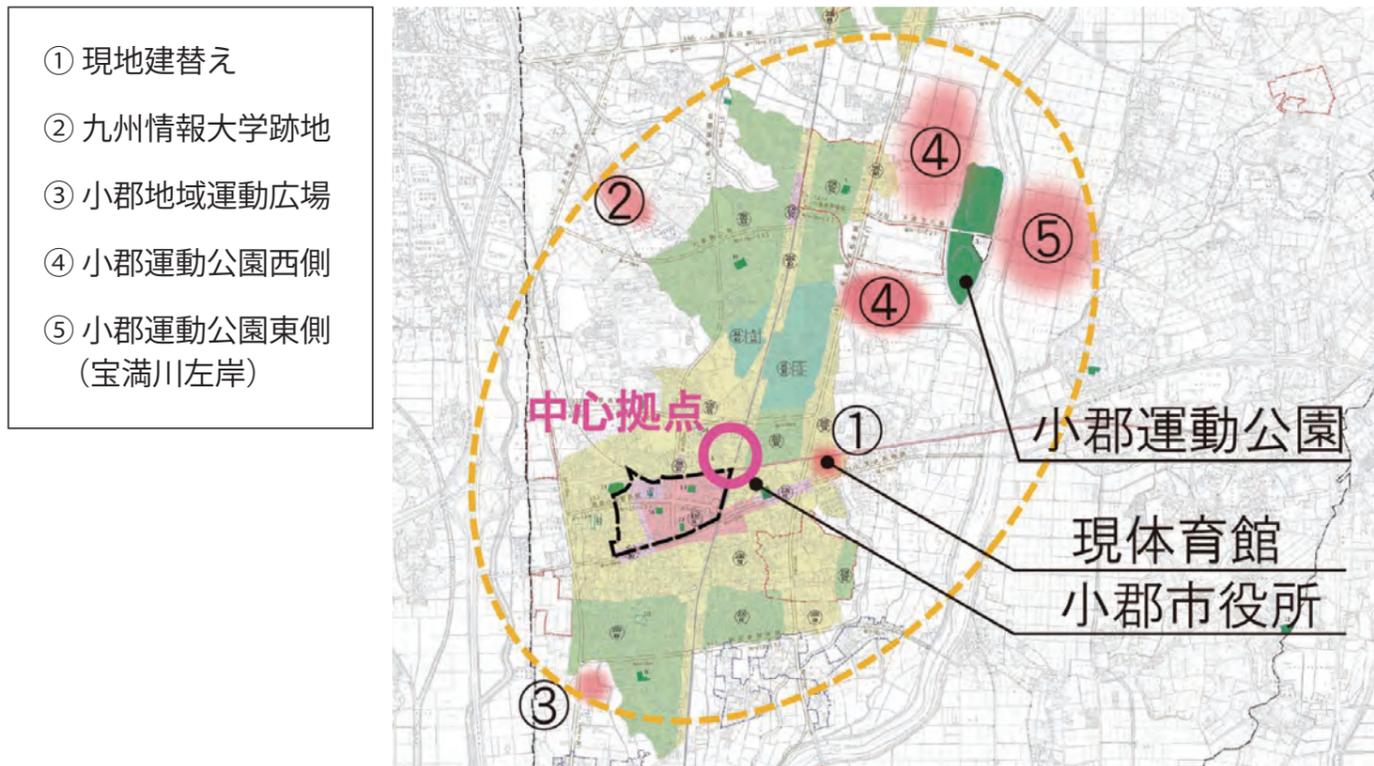


5. 建設候補地

小郡市都市計画マスタープランには、甘木鉄道と西鉄大牟田線の交差する小郡駅周辺を複合的な機能を有する中心拠点として、また、市内随所から鉄道や道路の利便性が高い大保地区を人の賑わいをつくる拠点としての機能強化を図るため都市機能の集積を行うこととしています。

市の拠点施設となる新体育館の立地も上記の関連性を考慮する必要があります。

公共施設等の主要拠点施設は、図の円内(黄色)の市街化区域内に立地していますが、市街化区域内には、体育館として使える敷地の確保が困難であるため、市街化区域と連続する場所の中から5箇所を想定して、建設候補地の比較検討を実施します。想定候補地以外でも適切な候補地があれば、必要に応じ候補地として検討することとします。



- ① 現地建替え
- ② 九州情報大学跡地
- ③ 小郡地域運動広場
- ④ 小郡運動公園西側
- ⑤ 小郡運動公園東側
(宝満川左岸)

本施設に必要となる敷地規模の確保やアクセス性を中心に法令上の課題、体育施設の集約化、防災面での安全性等について評価を行いました。

比較検討結果のまとめ

整備事業の確実性、事業費を重要視した場合

①現地建替え③小郡地域運動広場が公有地であるため用地を確実に確保できます。しかし、現地建替えは敷地面積、小郡地域運動広場は現機能の確保や、体育施設の集約化及び交通アクセスの点において課題があります。

公共施設(体育施設)の集積、交通アクセスを重要視した場合

④小郡運動公園西側、⑤小郡運動公園東側が優位ですが、この場所における課題として、各種法令の規制、用地買収の不確実性があげられます。

備考 体育施設の集約化については、駐車場や施設の相互活用が可能になるなどのメリットがあります。一方で、大会等が重複した場合に交通混雑や渋滞などの発生が懸念されます。

6. 概算事業費・財源

新体育館の建設にかかる概算事業費については、類似施設の建設単価を参考に、現在想定している面積、機能等から算出しました。以下の表が、概算事業費の内訳です。

詳細な建設事業費については、今後の財政状況等を踏まえ、基本設計・実施設計の中で具体的な検討を行うものとします。

なお、建設にあたっては、建設費や維持管理費についても十分考慮し、低コストで高品質な施設整備を目指します。

項目	規格	規模	概算事業費(万円)
用地費	-	2.2ha	-
建築費(アリーナ)	延床面積(建築面積 5,500 m ²)	8,300 m ²	332,000
(弓道場)	敷地面積 4,000 m ²	4,000 m ²	12,800
什器備品	トレーニング器具	-	5,000
	スポーツ器具、ロッカー、机備品等	-	10,000
外構費	外部植栽、フェンス等	-	3,300
駐車場舗装	500台確保	12,500 m ²	20,700
建築設計費	基本、実施設計	-	12,000
外構、駐車場設計			800
合計			396,600

建設事業費にかかる財源は、学校施設環境改善交付金や社会資本整備総合交付金など国の交付金や補助金等の活用を検討し、残りの事業費については地方債や市費(一般財源)を充てる予定です。

7. 計画期間

本計画達成の期間及び計画達成に向けた具体的なスケジュールは本計画策定を受け、平成29年度に判断するものとします。

また、社会情勢、経済情勢等を考慮し、必要に応じて計画の見直し等を行うこととします。